

長畝ふるさと通信



【2020年7月号】

■ コロナにマケナイ



7月22日、遂に佐渡でもコロナ感染者が出てしまい、島全体がざわつきました。北朝鮮のミサイルが発射されても無関心だった島民が、一斉に臨戦態勢に入りました。これでお盆の帰省客も激減だな……。世間ではGoToトラベルとかGoToイートとか一部の人の税金をばら撒いていますが……。そんなお金があるんだったら医療関係や被災者・失業者へもっと手厚く回してやるべきではないでしょうか。経済最優先で業界に忖度して票が欲しい政治家先生の暴挙にしか見えません。

感染が拡大している地域は人口密度が高い地域で、田舎は比較的感染を押さえられていると思います。この際、地域ソーシャルディスタンスで地方へ移住を進めてはいかがでしょうか。地方では人口減少が止まらず、経済活動が停滞していますから、都市分散させればお互いメリットがあると思います。わざわざ地方へ旅行に行く必要もなくなる訳ですな……？

これまでになく梅雨前線が停滞し、なかなか梅雨が明けません。生育調査をすると平年に比べて草丈が伸び、葉色も薄くなった圃場が目立つことから、7月末に追肥をしてエネルギーチャージをしたところです。梅雨明け宣言は何時になるかと心配していますが、その反動でまたバカ暑い夏が来ても困ったもので……。どうやら地球のご機嫌をとるのは人間には無理のようです。

■ 梅雨の晴れ間にせっせとお仕事



長雨のおかげで雑草は大暴れしていて、雨が上がれば草刈り三昧です。

← ワーホリのポール君もひと月も経てば慣れたもので、刈り払い機を自在に使いこなしてきれいに草を刈っています。

大豆畑も草ボーボーで、晴れ間を見ても除草剤散布に余念がありません。とにかく草との戦いは当分間続きそうです。

それにしても今年の梅雨は粘り強い。こんなに長く雨天が続いた記憶がありません。7月の降雨量は平年の倍以上、日照時間は半分に満たないそうです。外仕事ができないおかげで職員も今までに経験したことがないくらい有給休暇を取ってもらいました。働き方改革がこんなところで実現するとは何とも皮肉なことです。



■ こんな時にトキは今・・・

トキの7月末の生存個体数は「458羽」です。2008年から2019年末までに環境省によって野生放鳥されたトキは全部で364羽で、そのうち170羽が現在生存確認されているそうですから、残りの288羽は野生下で繁殖され、育ったトキという事になります。環境省の報告では2019年には99組のペアで120カ所の巣ができ、95羽の巣立ちヒナが確認されているとのこと。このままでいけば数年後には確実に1000羽のトキが佐渡の空を舞うことになるでしょう。田んぼへ行けば普通にトキが景色に溶け込んでいます。2019年に日本版レッドリストで「野生絶滅」から「絶滅危惧ⅠA類(157種)」に見直されましたが、更に見直されて「佐渡にしかいない鳥だけど佐渡へ行けばいつでも見れる鳥」になってもらいたと思っています。



■ 今年の田んぼアートです

今年の田んぼアートも見頃を迎えました。右のデザイン画に対して左の実物の出来栄えはお世辞にもよくできたとは言えない様ですが・・・(今年で4作目だけど、年々デザインに凝るせいか実物が良く見えない気がする)。田んぼアートの手前の土手には冒頭の「コロナにマケナイ」の草刈りアート文字があるのですが「ケ」の文字がすっかり削れて読めなくなっています。「ケが(怪我)無くて良かった」という洒落ではありません。



■ R2年産米もどうぞよろしくお願い致します

会員のみなさまにはR2年産米の年間予約注文書を同封いたしました。おかげさまでコロナ下にありながら、当方のお米は順調に販売できています。

米ぬか健康食品「ライステック」の設立者、飯沼一元氏の「米消費量と新型コロナウイルス感染者数の統計的解析」によると、5大大陸を含む主要19カ国に対して統計解析した結果、コロナ感染が主食に強く影響され、米食者は腸内細菌がよく、腸内細菌が良いと免疫力が高くなるので感染を抑制することが分かったそうです。アジアの感染が欧米の感染より少ないのは食の違いに由来すること。パンと肉中心の欧米型食事よりも、ご飯と魚中心のアジア型食事の方がウィルス感染への抵抗力が大きいことが証明されたと報告されています。生活習慣や政治の違いからこれだけで納得することはできないものの、コメ生産者としては頼もしい報告です。



「こんな世の中に誰がした」と嘆いていても事態は好転しません。未来に向かって、まずは自身と家族の健康を守りましょう。マスクはありませんが、おコメだけは十分に確保しますのでご遠慮なく召し上がってください。

おかわりは自由です。